

横浜市教育委員会  
臨時会会議録

- 1 日 時 令和7年8月22日（金）午前10時00分
- 2 場 所 市庁舎 18階共用会議室（みなと2・3）
- 3 出席者 下田教育長 植木委員 森委員 綿引委員 緒方委員
- 4 欠席者 泉委員
- 5 議事日程 別紙のとおり
- 6 議事次第 別紙のとおり

# 教 育 委 員 会 臨 時 会 議 事 日 程

令和7年8月22日（金）午前10時00分

1 会議録の承認

2 一般報告

学校運営協議会の設置状況、令和6年度活動報告及び今後の取組について  
ハートフルセンター上大岡の開設について  
令和7年度横浜子ども会議の区交流会について

3 審議案件

教委第16号議案 令和6年度実績横浜市教育委員会点検・評価報告書について  
教委第17号議案 横浜市いじめ問題専門委員会委員の任命について  
教委第18号議案 横浜市いじめ問題専門委員会臨時委員の任命について  
教委第19号議案 横浜市学校保健審議会委員の任命について  
教委第20号議案 横浜市学校保健審議会臨時委員の任命について

4 報告案件

教委報第2号 教職員の人事に関する臨時代理報告について  
教委報第3号 教職員の人事に関する臨時代理報告について

5 その他

[開会時刻：午前10時00分]

下田教育長

ただいまから、令和7年8月22日教育委員会臨時会を開会いたします。

本日は、泉委員より欠席の連絡を頂いております。

初めに、会議録の承認を行います。7月18日の会議録の署名者は森委員と綿引委員です。会議録につきましては、既にお手元に送付してございますが、字句の訂正を除き、承認してよろしいでしょうか。

各委員

<了 承>

下田教育長

それでは、承認いたします。字句の訂正がございましたら、後ほど事務局までお伝えください。

なお、8月5日の教育委員会定例会の会議録につきましては、準備中のため、次回以降に承認することといたします。

次に、議事日程に従い、教育次長から一般報告を行います。

石川教育次長

### 【一般報告】

#### 1 市会関係

教育次長の石川です。それでは、報告いたします。

まず、市会関係ですが、前回の教育委員会定例会から本日までの間についての報告はございません。

#### 2 市教委関係

##### (1) 主な会議等

○8/19 令和7年度 横浜市教育課程研究委員会 総則部会 研究協議会全体会

○8/20 令和7年度 一般学級における「誰一人取り残さない」教育の実現部会全体会

##### (2) 報告事項

○学校運営協議会の設置状況、令和6年度活動報告及び今後の取組について

○ハートフルセンター上大岡の開設について

○令和7年度横浜子ども会議の区交流会について

次に、教育委員会関係の主な会議等ですが、8月19日に「令和7年度 横浜市教育課程研究委員会 総則部会 研究協議会 全体会」が、また、翌8月20日に「令和7年度 一般学級における『誰一人取り残さない』教育の実現部会 全体会」がそれぞれ関内ホールで行われ、8月19日は、下田教育長、森委員、緒方委員が出席し、下田教育長が挨拶しました。また、植木委員、泉委員がオンラインで出席しました。8月20日は、植木委員、森委員、緒方委員が出席しました。また、綿引委員がオンラインで出席しました。

次に、報告事項として、この後、所管課から3点報告いたします。まず、1点目ですが、「学校運営協議会の設置状況、令和6年度活動報告及び今後の取組について」、2点目は「ハートフルセンター上大岡の開設について」、3点目は

「令和7年度横浜子ども会議の区交流会について」、報告いたします。  
私からの報告は以上です。

下田教育長

報告が終了いたしました。御質問等ございますか。よろしいですか。  
それでは、質問がなければ、「学校運営協議会の設置状況、令和6年度活動報告及び今後の取組について」、所管課から御報告いたします。

西野学校教育  
部インクルー  
シブ教育担当  
部長

おはようございます。学校教育部インクルーシブ教育担当部長の西野でございます。「学校運営協議会の設置状況、令和6年度活動報告及び今後の取組について」の御説明と御報告をいたします。報告することは本日3点ございます。1点目は、現在の学校運営協議会の設置状況、2点目は、令和6年度の学校運営協議会の活動の報告、3点目は、報告を踏まえた今後の取組についてでございます。本日の資料につきましては、学校支援・地域連携課長の大峽より御説明いたします。

大峽学校支  
援・地域連携  
課長

学校支援・地域連携課長の大峽でございます。学校運営協議会とは、地域住民、保護者と学校が学校運営の基本方針を共有し、一定の権限と責任をもち、それぞれの立場で当事者として学校運営に参画する仕組みです。また、学校運営協議会と地域学校協働活動を一体的に推進し、横浜の子どもたちを育てていくことを目指して、全校設置に向け取組を進めております。

「1 学校運営協議会 設置状況」を御覧ください。令和7年4月現在の設置校数は、503校中502校です。参考ですが、令和6年10月1日付の新規設置校は1校1協議会、令和7年4月1日付の新規設置校は2校2協議会となります。横浜市では引き続き設置を推進し、持続可能な協議会になるよう取り組んでまいります。

次に、「2 令和6年度 各学校運営協議会 活動報告」です。一つ目は「1 各学校運営協議会におけるテーマやねらい」についてです。「地域、保護者との一層の連携により、学びや不登校、いじめ等の課題に取り組む」「持続可能な働き方についての学校と地域との連携の在り方」など、各学校で様々なテーマを設定し、ねらいをもって各学校運営協議会を進めているという報告がございました。

次を御覧ください。二つ目は「2 各学校運営協議会における成果」についてです。「『いじめ』対策の視点を持ち、児童生徒を地域全体で見守っていくという意識の向上があった」「学校職員の働き方の現状と目標の理解が進み、新日課表の取組など新しい施策の意見を得ることができた」「横浜子ども会議とリンクさせ、子どもたちの話合いに委員も参加しての熟議を実施した」などの報告がございました。

ページをおめくりください。三つ目は「3 各学校運営協議会における課題」についてです。「会合に参加する職員が限定されがちであり、学校全体での共有は、資料と議事録が中心となり、課題意識や成果などに温度差が感じられる場合もある」「小中一貫ブロックで学校運営協議会を設置しているケースもあり、中学校区でまとまって情報共有や意見交換ができる良さがある。一方で、各校それぞれ実態・状況や取組、課題に応じた協議を深めることが難しい面もある」といった報告もありました。御覧のとおり、多くの成果が見られた一方で、今後に向けた課題も挙げられているというところです。

次を御覧ください。四つ目は「4 各学校運営協議会の今後の取組」です。「いじめ事案の解消に向け、小中で連携してモラル教育を実施していく」「学校

運営の改善を図り、学校の取組に対する理解と助言をもらう」「報告ベースではなく、様々な視点からの協議を経て、課題解決に向かえる運営方法を目指す」「地域との連携・協働をカリキュラムマネジメントしていく」といった報告がありました。

次に、「3 令和6年度活動報告を踏まえた今後の具体的な取組について」です。こちらは各学校運営協議会が課題と捉えたことを、教育委員会事務局として今後の取組によって改善し、更なる充実を目指すという意図が含まれております。学校運営協議会がほぼ全校に設置された中、次の段階として更なる質の向上を目指し、研修の充実や、好事例の発信、指導主事の訪問等、学校への支援などを進めていければと考えております。

一つ目、「1 充実した研修の実施」。横浜市人材育成指標に基づいた教職員のステージ研修。新任校長、副校長昇任候補者への研修。二つ目として「2 全校への支援体制の充実」。指導主事による電話相談、訪問相談、個別相談。また、広報誌「架け橋」の発行による好事例の発信。三つ目として「3 関係機関との連携の推進」として、文部科学省CSマイスター、NPO法人、学校長経験者等との連携による研修やノウハウの共有。区役所こども家庭支援課学校連携職員による、協議会へのオブザーバー参加などを考えていきます。

最後のページを御覧いただければと思います。今回、各学校からの取組でとても参考になる素晴らしい事例がありましたので、四つほど取組事例を掲載しております。「地域と教職員が一体となった取組」として、新吉田第二小学校。「いじめ対策に向けた取組」として、鴨志田中学校。「生徒と地域・学校が一体となった取組」として、みなと総合高等学校。「学校運営協議会と地域学校協働本部との一体的な取組」として、原中ブロックを挙げさせていただいております。それぞれ記載しておりますので、後ほど御覧いただければと思います。これらの取組につきましては、各校にとっても大変参考になるものと考えておりますので、各校に周知して各校に広げていければと考えております。報告は以上となります。どうぞよろしくお願いいたします。

下田教育長

説明が終了しましたので、御質問があればお願いします。

綿引委員

御説明ありがとうございます。改めて報告を聞かせていただいて、それぞれの成果、それから代表的な四つの事例を見て、学校運営協議会が非常に活性化しているということが確認できて、うれしい限りでございます。それで、1点お願いとしては、地域によって特性にばらつきは相当あると思いますが、これから少子化や高齢化、社会との希薄性や多様化など、いろいろな環境が変わってくると思います。そういった環境に合わせて学校運営協議会がより活性化して子どもたちを守って育むというのを実現するために、「3 令和6年度活動報告を踏まえた今後の具体的な取組について」の「3 関係機関との連携の推進」というのを一層進めていただきたいと思います。地域には素晴らしい教育資源の方々もいらっしゃいますし、横浜市が国際交流を掲げる以上、学校運営協議会としても国際交流の要素を取り入れるようなことをぜひ政策として考えていただきたいと思います。私からは以上です。

下田教育長

ほかにごありますか。

緒方委員

御説明どうもありがとうございます。この取組は大分進んできて、あと1校だけまだこれから設置ということですが、設置が広がると良いなと私は思っております。

ます。それで、「2 令和6年度 各学校運営協議会」の「3 各学校運営協議会における課題」のところに書かれている、会合に参加する職員が限定されていたり、学校全体で少し温度差を感じるというところが課題として挙げられています。私もそうだなという感じがします。あと、学校差でも私はいろいろと感ずるところがあるのですが、これだけ良い取組がされているので、学校運営協議会というのは自分たちの行っている教育活動を豊かにするということを実感的に分かるような研修等で、ぜひ学校運営協議会をより深く広めていただけたらなと思いました。以上、お願いします。

下田教育長

ほかにございますか。

森委員

御報告ありがとうございます。学校運営協議会、資料の一番冒頭のところにも書いていらっしゃるんですが、本当にたくさんの方の角度から御意見とお力をいただきながら学校運営していくということにつながる、大変大切な取組だと思っております。最初の文章の「基本方針を共有し」「一定の権限と責任をもち」「当事者として学校運営に参画する仕組み」というこの3点が本当にそうなっているかということ、私たちとしては確認していく必要があると思っております。そのスタート地点に立つというところで、まず、学校運営協議会がこの5年間で200校設置されて、ほぼ全校設置になったというスタートラインに着いたことにつきましては、教育委員会事務局の皆さんは大変な御苦勞があったと思いますので、改めて感謝を申し上げます。実際にこの課題で書いていらっしゃることやいろいろなお話をお聞きしていきますと、いくつかこれから更に質を高めていく、より実効性のあるものにしていくためには、越えなければいけないハードルがあると感じております。

感じていることとしましては、大切だと思っていることが4点ありまして、1点目はテーマの選定、2点目がメンバーの選定、3点目が議論の仕方、4点目が日常への接続をどうしているかというこの4点がしっかりとなされているとすごく良い議論になって、目的に近づいていくのかなと感じています。そのため、この4点が実際に質を高めていくための研修になっているだろうか、教育委員会事務局としてのバックアップ体制になっているかということもしっかりと考えていただきたいなと思っております。

テーマの選定ということについてですが、学校を運営している中での課題はたくさんあると思います。どのテーマをこの場で皆さんと議論したら良いかという選定の仕方。皆さんと議論するからこそ、すごく豊かになる議論だという、どこに焦点を当てるかということが少し曖昧であったり形式的だったりすると、議論が深まりにくいと思うので、テーマの選定の仕方は一番大切なポイントかなと思っております。

テーマに合ったメンバーになっているかということですが、メンバーは基本的に一緒にテーマは毎回変わるような、少しずつ出てくることもあるときに、しっかりとその調整がなされているのだろうかということが一つ疑問としてはございます。メンバーの皆さんによって、このような方に座ってほしいな、来てほしいなと思ったときに、その方が参加できる環境になっているか。時間の設定、曜日、あとは場合によっては家族のケアがあって家から出られないかもしれないときにオンラインでの参加ができるかなど、そういったことの工夫がないと、メンバーとテーマのずれというのは生じ続けてしまうと思いますので、そういったところの工夫をぜひお願いしたいと思っております。

議論の仕方ですが、情報がそろっていない中で何となく御意見を申し上げます

というのは非常に難しいと思います。深まりませんし、どのように議論を深めていくか、ファシリテートする方や職員の方のスキルアップは大変大切だと思います。

最後、日常の接続というところにつきまして、4点の事例については非常にそれが工夫されてると感じておりますが、そこで取り組んで良かったねで終わらないような、どのようにフィードバックしてまた次の会議に持ち帰るかなど、その循環を作っている好事例を、そのポイントをぜひ御共有いただけたらなと思っております。こちらは意見です。

下田教育長

事務局、何かございますか。

大 峡 学 校 支  
援 ・ 地 域 連 携  
課 長

ありがとうございます。確かに今そのようなところは大変重要だと思っております。例えば指導主事などが訪問するときなど、そのような視点ももって学校と一緒に考えていたり、学校にアドバイスしていたり、そのようにつながるようにしていければと思っております。

下田教育長

ほかにもございますか。

植木委員

御説明ありがとうございました。質問と言いますか意見ですが、学校運営協議会、地域の中でどう進めていくのかということが本当に大切な協議会だと思います。それぞれの地域の中の子どもたちが学ぶ場がしっかりと運営されていることを地域の方たちも確認できる。そして、意見も言えて、参画できる。そういったところで非常に大切なものだと思います。そのため、各校に設置したというところで終わるのではなくて、それぞれの地域の特性であったり実態に合わせた議論がしっかりとできるように、そして、その地域だけのお話ではなくて、横浜市全体で学校をどうしていきたいのかということがしっかりと地域の皆さんにも伝わるように、その辺りは教育委員会事務局としてのサポートが不可欠だと思っておりますので、その辺りも含めて引き続きよろしく願いいたします。以上です。

下田教育長

ほかにもございますか。この件はよろしいでしょうか。

それでは、ほかにも御質問がなければ、次に「ハートフルセンター上大岡の開設について」、所管課から御報告いたします。

住田不登校支  
援 ・ い じ め 対  
策 部 長

よろしく申し上げます。不登校支援・いじめ対策部長の住田です。それでは、「ハートフルセンター上大岡の開設について」、担当の不登校支援・いじめ対策課担当課長から御説明させていただきます。

末吉不登校支  
援 ・ い じ め 対  
策 課 担 当 課 長

不登校支援・いじめ対策課担当課長の末吉でございます。よろしく願いいたします。それでは、「ハートフルセンター上大岡の開設について」、御報告させていただきます。お手元の資料を御覧ください。「初の総合的な不登校支援拠点ハートフルセンター上大岡がオープン ～子どもに“居場所”を、保護者に“つながり”を～」ということで、令和7年8月18日に記者発表を行いました。

「施設概要」を御覧ください。ハートフルセンター上大岡ということで、不登校の子どもたちが通える場所を新たに設けることといたしました。場所ですが、上大岡にございますゆめおおおかオフィスタワーの13階になります。横浜市営地下鉄、それから京浜急行、どちらの上大岡の駅からも直結しております。雨にぬれず子どもたちが通えるような場所となっております。開設日ですが、令和7年8

月27日水曜日、夏休み明けの開設を予定しております。

こちらの施設の特徴を3点挙げておりますので、御紹介させていただきます。1点目は、近隣にこれまで開設しておりましたハートフルスペース上大岡の約4倍の面積がございますので、子どもたちがのびのびと体を動かせたり、また、学べる学習エリアなど、一人ひとりの「やってみたい！」を実現できるような環境を今回新たに整えました。2点目は、誰もが安心して「自分に合った居場所と学び」を選べる、ワンストップ型の施設にしていきたいと考えております。3点目は、「保護者の心に寄り添う支援を提供」ということで、保護者の方々が相談や交流ができるようなスペースというのも新たに設けていきたいと考えております。

下の写真を御覧ください。こちらで現地の様子を御紹介しております。フリースペースや学習エリア、運動スペース、また、保護者が過ごせるようなハートフルカフェ、機能ごとに環境を整えております。それぞれの部屋の名前を子どもたちに決めてもらうなど、子どもたちに意見を聞きながら空間設計をしてみました。

裏面を御覧ください。開設を記念したイベントを予定しております。一つ目ですが、「1 記念講演会」。令和7年8月24日に開催予定です。子どもたち、それから保護者の方向けに、棚園正一さんという漫画家の方にお話をさせていただこうと考えております。御自身が実際に不登校を経験された方で、その経験を漫画にしたり、全国各地で御講演もされている方になります。当日は漫画を実際に描くところの実践などもしていただけるということで、参加した子どもたちにも楽しんでいただけるのではないかと考えております。

二つ目です。「2 保護者相談会」。こちらは令和7年9月23日に予定しております。講師として、これまで不登校支援や引きこもり支援、また、保護者相談に長年携わっていらっしゃるNPO法人アーモンドコミュニティネットワークの水谷裕子さんに講師をお願いしております。後半の第二部の相談会では、フリースクールやそのほかの支援団体の方にも来てもらって、官民で連携した不登校の支援、また、保護者同士の関係づくりにも資する場所になればと思っております。

新しい環境の中になります、ハートフルセンター上大岡が不登校支援の拠点として、また、子どもたちの新たな学びの選択肢となるよう、子どもたちが安心して過ごせる環境をこちらで作っていきたいと考えております。御説明は以上になります。よろしく願いいたします。

下田教育長

説明が終了いたしました。御質問があればお願いいたします。

緒方委員

御説明どうもありがとうございました。とても良い取組だと私は思います。不登校の子どもたちにとっては、本当に力強い存在になるのではないかなと思ってます。このような新しい取組を始めるときには、子どもの意見をこの後じっくり聞き取って、よりよくブラッシュアップしていくためにはどうしたら良いかということを考えていかなければいけないのかなと思います。これはまずは私たち大人がと言いますか教育委員会事務局で、もちろん子どもたちに寄り添いながら作りましたが、よりブラッシュアップするためには、子どもたちの話をしっかり聞いて、より良いものにしてほしいなと思います。ハートフルセンター上大岡、上大岡という場所で、南部地区が中心になるかと思いますが、これがまた全市に広がっていくような、広げていく手立てもまたこれから先、考えていただきたいなと思いました。以上です。



下田教育長

ほかにございますか。

植木委員

御説明ありがとうございます。今回は児童生徒の方だけではなくて、保護者の方のそういった交流の場もできるということで、保護者の方にしてみると、いろいろな方と交流できるので、すごく良い場所になるだろうとっております。あと、場所がゆめおおおかオフィスタワーの中にあるということで、いろいろな公の施設も入っているところだと思っております。ぜひこのスペースの中だけで子どもたちが過ごすのではなくて、いろいろなことに興味を持てるような形での取組をしていただければ良いなと思っております。よろしく願いいたします。

下田教育長

ほかには御意見がございましたらお願いします。

森委員

御報告ありがとうございます。コメントはいくつかあるのですが、その前に2点ほど御質問したくて、1点目が今回リアルなセンターとして上大岡に開設するというだけではなくて、「オンライン、バーチャルの学びの3層空間も活用して、柔軟で多様な支援を提供します」とありますが、どのようなイメージなのかをもう少しだけ教えていただければと思います。

2点目は、リアルな部分ですが、この写真を見ますと、非常に空間をいろいろと工夫されたのかなと思ひまして、どのような工夫、考えにより、このような空間作りや環境作りをしたとういうのがあれば、ぜひ教えていただきたいと思ひまして、それが例えば各学校などへの環境作りにもつながる大切なポイントだとも思ひますので、その2点お聞かせください。

末吉不登校支援・いじめ対策課担当課長

ありがとうございます。まず、1点目ですが、オンラインやバーチャルのイメージということで、一つにはこの場所を使って、新たにオンラインスタジオを設ける予定にしておりますので、ここからの発信というのも考えております。その意味では、このハートフルセンター上大岡に来る子どもだけではなくて、御家庭にいる子どもたちにも発信する、そのような意味でもハートフルセンター上大岡を拠点として活用していきたいと考えております。このところが1点目になります。

また、2点目、空間作りですが、やはり学校になじめない、行きづらさを感じている子どもたちが集まる場所ということになりますので、もちろん学ぶ環境というのは大切にしながらも、学校の教室とは少し違うような空間、色使いなど、また、机・椅子などの設備なども学校とは少し違うような、子どもたちがここに行ってみたい、ここだったら通えそうだと思うような空間にしていきたいと考えております。今後も取り組んでいきたいと考えております。

森委員

ありがとうございます。もう一つ質問があるので、付け加えさせてください。「保護者の心に寄り添う支援を提供」の部分ですが、「不登校支援コーディネーターによる相談窓口を新たに設置する予定です」とあるのですが、こちらもう少しだけ、どのようなイメージか教えてください。

末吉不登校支援・いじめ対策課担当課長

ありがとうございます。社会福祉士の資格を持っている不登校児童生徒支援コーディネーターを配置しまして、その方に保護者からの相談にも乗ってもらおうと思っております。また、こちらから一方的に相談に乗るだけではなくて、保護者同士の横のつながりで、保護者からすると勇気付けられることなどもあるので

はないかなと思っておりますので、そのところの関係作りにも不登校児童生徒支援コーディネーターに力を発揮していただこうと思っております。

森委員

ありがとうございます。このハートフルセンター上大岡ができるということで、今こういった詳細がだんだん見えてきた中で、私自身も不登校の児童生徒や保護者の方のお話をお聞かせいただいている中で、これまでのいろいろな困ったことに対して、すごく大切なポイントを押さえていただいているかなと思っております。子どもたちが自分で選択できるということ、学校にいたことがどうしてもしんどい場合、自分に合った居場所が選択できるということに加えて、その選択を伴走する機能が充実していくということ、選択しやすいことなど、まずは学びの手前の居場所としての機能と、その学びに向けての伴走と二つあると思いますが、そのときに自分がどのようなことをどのぐらいしたいかということへの機能というところも、まだまだこれからだと思いますが、更なる充実をお願いしたいなと思いながらお聞きしておりました。自己選択しやすいためのところの中では、居心地の良い空間作りもとても大切だと思えました。最初の御質問のところに対してもいろいろ工夫されたと思いますし、ぜひこれがほかの学校の中でも広がっていくと良いなと思っております。

大切なポイントだと思ったところにつきましては三つあるのですが、これまですごく聞いてきた課題としては、情報格差の部分です。学校に相談しても、教職員や学校長など、皆さん持っている情報の量にばらつきがありまして、相談に行っても本当はあったのにその情報にたどり着けなくて苦しかったという声をたくさん聞いてきました。そのため、どこかに情報が一元化されていないだろうかと思えます。仮に学校に相談して情報がない場合でも、他に行けばその情報にアクセスできるという相談窓口がないだろうかという話はたくさん聞いてきた中で、情報のワンストップというところは非常に大きいかなと思いますので、相談窓口というところにつきましては、必要数に対して、最初にスタートできる、提供できる量というのは少しギャップがありそうだなというところが心配ですが、ぜひアクセスしやすく情報が一元化されて、こういう支援が今あって自分はこれが選べる状態だということを分かりやすく見できるようにしていただきたいなと思っております。当然ながら、地域によって学校の周辺環境によって情報が違う、資源が違いますので、そこもどれだけきめ細やかにできるかがこれからキーになると思いますが、最近、区ごとにいろいろなマップを作っているという話も聞きますので、そういった連携などもぜひお願いしたいと思えます。

二つ目が、過去、学校で校内ハートフルや特別支援教室など、たくさん工夫されているところと、環境作りに苦戦しているところがあるとお聞きしています。どうしても教室に戻そうというエネルギーが強過ぎてしまって、子どもがすごく拒否感を示してしまうということもあったり、声掛け一つにおける、すごくつらさもあるという声を聞きますので、各学校、特別支援教室や学校内ハートフルでの支援力アップにもつながるような機能というのがあるのか、そこはどうかかというのでも少しお聞きしたいところはありますが、その知見もたまっていって共有されるという、その意味でのワンストップにもなったら良いなと思っております。

最後が先ほどの質問ともつながる保護者支援の部分でして、保護者の方によっては仕事を辞めざるを得なくなったり、経済的に非常に厳しい状況になったり、家族内でのコミュニケーションがとても大変になっていたり、非常に不安が重なっていく状況をお聞きしています。そうした中で、保護者の方が相談できることや保護者同士で話せるという、そこに着目して充実をしていただい

るということは非常にうれしいですし、ぜひそこを更に充実、支援していただくと良いかなと思っています。

更にというところでは、残っている課題としてはフリースクールを選ぶ方々も増えてきていますが、経済的な状況によって選択できないということはまだまだたくさんお聞きしますので、この学校内での環境作りの充実と、こういったそれ以外の選択肢ということで、教育委員会事務局としてできることと、それだけではやはり難しいという家庭もまだまだいらっしゃいますので、そこへの支援と、取り組むことがたくさんあって大変だと思いますが、学校に通っていない子どもたちの声と保護者の声を拾って、直接聞く機会もぜひ充実して、更にお願いたいなと思っています。

末吉不登校支援・いじめ対策課担当課長

貴重な御意見ありがとうございます。冒頭おっしゃっていただいた伴走というところは非常に大事かなと思っています。今回新しく開設するというところで、もう既に何人かの子どもたち、それから保護者の方には、実際に体験として現地に足を運んでいただいています。広々とした環境で、新しいところで、楽しみだとおっしゃっていただいている子どもたちが大多数ですが、中には新しい環境は不安だなというような気持ちを持っている子どももいると聞いていますので、そういった意味では、これから現地には教員経験のある支援員や、また、スクールカウンセラー、先ほど申し上げた不登校児童生徒支援コーディネーターもいますので、子どもたち、それから保護者にしっかり伴走できるような体制にしていきたいと考えております。

また、その後に御意見を頂きました情報のところ、学校、また、保護者支援というところでは、もちろんこのハートフルセンター上大岡でワンストップというところは大事にしながらも、情報にしても、それから保護者支援にしてもそうですが、先ほど緒方委員からもありましたが、各学校にここでの実践・取組を広げていくということが大事かなと思います。ここだけで全て解決するというものではないと思っていますので、その辺りも意識していきたいと思っていますし、また、フリースクール、民間企業との連携、行政だけで取り組むのではなくて、民間企業の手も借りながら子どもたち・保護者を支援する、その拠点としてもハートフルセンター上大岡をうまく今後活用していきたいと思っています。また引き続き御意見を頂ければと思います。ありがとうございます。

下田教育長

ほかに御意見等ございますか。よろしいですか。

それでは、ほかに御意見がなければ、次に「令和7年度横浜子ども会議の区交流会について」、所管課から御報告いたします。

住田不登校支援・いじめ対策部長

引き続きまして、不登校支援・いじめ対策部長の住田です。「令和7年度横浜子ども会議の区交流会について」、所管課である不登校支援・いじめ対策課担当課長から御説明申し上げます。

麻野不登校支援・いじめ対策課担当課長

不登校支援・いじめ対策課担当課長の麻野です。よろしくお願いたします。私からは、「令和7年度横浜子ども会議の区交流会について」、御報告させていただきます。資料を御覧ください。横浜子ども会議は、いじめを「しない」「させない」「見逃さない」安心できる社会を目指し、全市立学校の児童生徒が、いじめ問題について主体的に考え、話し合いをする「いじめの未然防止」の取組となっております。今回は小学生から高校生までの児童生徒の代表者が区ごとに集まり、異学年でいじめそのものに向き合った話し合いを行うため、区交流会を令和7

年8月27日から開催させていただきます。

資料の中段を御覧ください。「令和7年度のテーマ」です。「いじめをしない自分であるために」、副題が「つながる、広げる、いじめの未然防止の輪」ということで設定させていただきました。今年度のポイントですが、2点ございます。1点目は、いじめの定義を学んだうえで、「いじめをしないために自分に何ができるか」を話し合います。2点目です。令和7年5月に、「横浜市いじめ防止基本方針」を改定いたしました。それに伴い、今年度中に改定する各学校の「学校いじめ防止基本方針」に、今回の横浜子ども会議で出た子どもたちの意見を反映させていきたいと思っております。

「概要」です。「1 横浜子ども会議の流れ」。8月の区交流会については、小学校・中学校・義務教育学校・特別支援学校・高等学校の代表児童生徒が、区ごとに一堂に会し、いじめについての話合いやいじめ防止の取組の共有をいたします。会議の内容を受けて、各学校に戻った際には感じたことや考えたことを報告し、今後の自校の話合いや具体的な取組に生かしていきます。

通年で行う横浜子ども会議ですが、各学校での話合い、ブロックごとでの話合い、高等学校・特別支援学校高等部の代表生徒の話合い等がございます。いじめの未然防止を目的に、今年度のテーマについて話し合います。いじめの定義を学び、いじめ防止対策推進法第2条の「相手が嫌だと感じているもの」がいじめであるということを理解したうえで、他者の意見や感性に触れながら、いじめをしないために自分は何ができるかを考えていきたいと思っております。

併せまして、12月の「いじめ防止啓発月間」の「いじめ防止市民フォーラム」の際には、区の代表の児童生徒が集まって、市全体での意見交換会を予定しております。

裏面を御覧ください。「2 区交流会の参加者」です。市立小学校・中学校・義務教育学校・市立特別支援学校・市立高等学校に在籍する児童生徒の代表者が今回は集まります。

「3 区交流会の日程・会場」についてです。令和7年8月27日水曜日の中区・瀬谷区をスタートとして、8月29日金曜日まで18区で開催させていただきます。

参考までに、最後、令和6年度の横浜子ども会議の区交流会、そしていじめ防止市民フォーラムの様子などを掲載させていただきました。御覧いただけたらと思います。私からは以上です。

下田教育長

説明が終了いたしました。御質問等ございますか。

緒方委員

御説明どうもありがとうございました。横浜子ども会議はもう十数年続いていると思いますが、考えてみると、小学校1年生で始めた子どもたちが今は高校生になって、だんだんこれが積み重なることによって、醸成されてきているのかなと思います。最初の頃は多分このような会議が始まったということで、認知度も低かったと思いますが、今は、横浜市の学校教育の中に、根づいた活動になってきているのかなと思います。素晴らしいことだなと思います。

今、説明資料を見せていただいたのですが、「いじめをしない自分であるために」「いじめ」ということがテーマなのですが、入り口はこれで良いのですが、終わりは逆の発想でも良いのかなと私は思います。どういうことかと言いますと、これだけ読んでいくと、自分がいじめという負の世界に陥らないようにするためにどうするかと私は捉えてしまったのですが、そうではなくて、ここにも書いてある他者の意見や感性に触れたり感じたり、そういうことができる人間は

すごく魅力的なすてきな人間だよねという、どちらかというポジティブに、「みんなで魅力的な人間になっていこうよ」と捉える。自分がいじめという負の世界に陥らないためにではなくて、みんなで魅力ある人間になっていこうよという、流れで行くのも良いのかなと思ったので、もちろん今はいじめをしないという、それを防止しなければいけないということが大前提にあるので、これはこれで私はとても良いと思うのですが、多くの子どもたちは、やはり自分は魅力的な人間になりたいなという思いもたくさん持っていると思うので、そのこともぜひ考えていただけたらなと思いました。以上です。

下田教育長

ほかにございますか。

森委員

御報告ありがとうございます。いろいろなところで横浜子ども会議をして、その後生まれてきているものというのものもあるのではないかなと思うのですが、どういったものがありますか。横浜子ども会議だけで終わってしまっているのではなくて、どのような広がりがあるのか、何かあれば少し教えていただけますか。

住田不登校支援・いじめ対策部長

不登校支援・いじめ対策部長の住田です。ありがとうございます。この横浜子ども会議というのは、実際には学校での活動のことを指していて、区交流会というのはあくまでも学校ごとの代表が集まって、どのような取組をしているか、どのような話し合い活動をしましたよということ、横のつながりの中で刺激を受けるという取組です。実際の学校を中心とした横浜子ども会議の活動自体は、ブロックに今かなり発展しているところがありまして、ある中学校ブロックでは、中学校1校と小学校2校のブロックですが、独自にいじめ防止のサミットを開き、地域の方々、それから近くにある高校生、高等学校なども巻き込みながら、そういったサミットを開催するということまで発展していると思っております。少なからず中学校ブロックでの話し合い活動や活動自体は、どこの中学校ブロックでも行っていることですので、そういった取組が、保護者はもちろん少しずつ地域を巻き込みながら進んでいるという実感値を持っています。

森委員

ありがとうございます。すごくそれは良い事例だなと思います。子どもの頃を思い返したり、いろいろな子どもたちの声を聞いていると、学校と家庭と、若しくは習い事なのか、世界がすごく閉じている感覚になって、そこでの居場所を失ってしまうと、本当に自分の居場所がどこにもないというような感覚になってしまう、そのため怖くて、居場所を失うのが怖いから誰かを攻撃してしまったり、見ても今度は自分がいじめられたくないから見て見ぬふりしてしまうというような、葛藤や怖さ、不安や孤独感というようなところが根っこにあったりもするので、それが学校だけが全てではないというような感覚になれるような、開いていくようなことをしないと、やはりここは学校だけで話し合っても仕方がないなということもあるので、そういった広がりになっているということはすごく大切だと思いますし、もっとそういうことが広がっていくと良いなと思いました。

どうしても大人の会議もそうですが、会議をして、議論をして、今回は各学校の基本方針に意見を反映するとあります。意見を反映していくことはすごく良いことだと思います。でも、それですっきりしてしまうとあまり意味がないと言いますか、これは逆にすっきりしてはいけない会議だと思っていて、ずっと考えることや葛藤し続けること、自分の中にあるどろどろとしたものが、ないものでは

なくてあるということから目を背けないで、どうしたら良いだろうかということ  
を考え続けなければいけないということで、結構苦しい作業をし続けるというこ  
とだということ認識するのが、実はすごく大切なのかなと思うので、あまりす  
っきりさせる会議にしないでいただきたいなと思いました。

かつ、子どもたちに向けたアンケートを思い返してみますと、子どもによっ  
てはSOSに気付いてほしいというような声もあれば、逆にそっとしておいてほ  
しいという声もあって、子どもたちの声がすごく多様だったと思うので、発表の場  
だけではないということ、子どもたち自身も教職員の皆さんも、どうしても横  
浜子ども会議は発表の場にもなっています、一つ取り組めばうまくいくので  
はない部分の、人のいろいろなもの見方と感じ方の多様性をしっかりと抑えた  
内容であってほしいなと思いました。

下田教育長

ほかにございますか。よろしいですか。

それでは、ほかにも御質問等がなければ、次に、議事日程に従い、審議案件及び  
報告案件に移ります。

まず、会議の非公開について、お諮りします。教委第16号議案「令和6年度実  
績横浜市教育委員会点検・評価報告書について」は、議会の報告案件のため、教  
委第17号議案「横浜市いじめ問題専門委員会委員の任命について」、教委第18号  
議案「横浜市いじめ問題専門委員会臨時委員の任命について」、教委第19号議案  
「横浜市学校保健審議会委員の任命について」、教委第20号議案「横浜市学校保  
健審議会臨時委員の任命について」、教委報第2号及び教委報第3号「教職員の  
人事に関する臨時代理報告について」は、人事案件のため、非公開としてよろし  
いでしょうか。

各委員

<了 承>

下田教育長

それでは、教委第16号議案から教委第20号議案、教委報第2号及び教委報第3  
号は、非公開といたします。審議に入る前に、事務局から報告をお願いいたしま  
す。

古瀬総務課長

今回の教育委員会定例会は、9月5日金曜日の午前10時から開催する予定で  
す。また、次々回の教育委員会定例会は、10月3日金曜日の午前10時から開催す  
る予定です。

下田教育長

今回の教育委員会定例会は、9月5日金曜日の午前10時から開催する予定で  
す。別途、通知いたしますので、御確認ください。

次に、非公開案件の審議に移ります。傍聴の方は御退席願います。また、関係  
部長以外の方も退席してください。

<傍聴人及び関係者以外退出>

下田教育長

教委第16号議案「令和6年度実績横浜市教育委員会点検・評価報告書につい  
て」

(原案のとおり承認)

教委第17号議案「横浜市いじめ問題専門委員会委員の任命について」

(原案のとおり承認)

教委第18号議案「横浜市いじめ問題専門委員会臨時委員の任命について」  
(原案のとおり承認)

教委第19号議案「横浜市学校保健審議会委員の任命について」  
(原案のとおり承認)

教委第20号議案「横浜市学校保健審議会臨時委員の任命について」  
(原案のとおり承認)

教委報第2号「教職員の人事に関する臨時代理報告について」  
(報告のとおり承認)

教委報第3号「教職員の人事に関する臨時代理報告について」  
(報告のとおり承認)

下田教育長

本日の案件は以上です。これで、本日の教育委員会臨時会を閉会といたします。

[閉会時刻：午後0時5分]